

# 医療観察法撤廃の集い

## 肥前病院自殺事件から收容所

### 列島日本を問う集いにご参加を

労働者、市民のみなさん。2005年に施行された「心神喪失等医療観察法」は、「精神病者」を犯罪予備軍と規定して差別する保安処分です。私たちは保安処分法の撤廃を求めます。「医療観察法」病棟でおきた收容患者の自殺事件を闇に葬らせてはなりません。私たちは「医療観察法」の問題点を問う学習の集いを開催します。ぜひ多くの方のご参加をお願いします。

#### 肥前病院自殺事件

2007年12月14日、九州の肥前精神医療センター保安病棟に收容されていた患者が自殺するという事件がおきました。この事件は一人の死というだけでも重要なことですが、それにとどまらず、「医療観察法」病棟で行われていることが、医療ならざる行為であることを象徴するものです。

「医療観察法」病棟には、刑事事件を起こしたが、病院

での医療が必要であるとして刑務所に行かなかった人たちが收容されています。しかし、そこで行われていることは、死にまで追い詰める行為なのです。入院と通院を含めるとすでに12人が自殺しているという恐るべき事態になっています。

ところが、肥前精神医療センターが事件究明のためとして設置した第3者委員会は「医師と患者の信頼関係はあったから医療側に責任はない」という居直りの報告書を出しました。事件を闇に葬ろう



JR兵庫駅から徒歩で歩道橋で北にすぐ  
JR兵庫駅にはJR三ノ宮駅から明石方面へ3駅です

**日時／5月22日金曜日午後6時開始**  
**会場／兵庫勤労市民センター第3会議室**  
報告／高見元博（兵庫県精神障害者連絡会）  
お話／柴田明（兵庫県立光風病院医師）

主催／保安処分病棟に反対する有志連絡会  
共催／兵庫県精神障害者連絡会  
連絡先／尼崎市長洲東通2-11-3-202共生舎  
電話／090-3054-0947 Eメール gen1951@nifty.com

とするものです。私たちはこれで事件が終息させられることを許せません。法と制度の矛盾が人を殺したのです。

### 絶望を強制する医療観察法病棟

自殺された方の発病原因は自衛隊内のいじめでした。傷害事件を起こして「医療観察法」病棟に收容されていたところ、外出訓練中に逃走しました。そして佐賀県の病院から遠く横浜の元の自宅の近くで鉄道自殺したのです。衝動的自殺ではなく、絶望の果ての自殺と考えられます。

この事件は「医療観察法」病棟で行われていることが絶望を作り出すものであることを示すものです。そこでは、毎日毎日事件への反省が求められます。收容者は毎日、評価項目というもので縛られます。その評価項目は再犯をしないということが第一目的です。患者の身にたった治療とは全く違うことが行われているのです。孤立し、絶望した自殺者が出るのは必然です。

この事件以後は外出者の服に位置測定機能付携帯を縫い付けるようになりまし

た。患者としての扱いではありません。まるで強制收容所です。施設自体が強制收容所そのものの構造です。

### 刑事事件の社会的要因を塗隠すもの

私たちは、刑事事件が起きたときにその背景にある社会的要因を取り除くべきなのです。社会のあり方が何よりの犯罪の原因です。この事件も自衛隊内のいじめがなければ起きなかったのです。

政府やマスコミという権力は重大な刑事事件が起きると「精神病患者」をいけにえにして、社会の矛盾をすり替えます。社会の批判に目が向かないように、人民同士を敵対させるのです。結果として保安病棟への20年30年もの長期收容者をつくり出します。同時に「精神病患者」は危険なものという根拠のないデマ扇動が振りまかれています。

私たちは昨年の学習会以降に明らかになった事実を踏まえて学習の集いを開催します。労働者、「精神病患者」、精神医療従事者は5・22集いへ参加してください。

「医療観察法」病棟設置図

フェンス及びセンサー等の設置図

これが病院か！？  
まるで強制收容所

